

## フィラデルフィア科学大学と医薬産業政策研究所との懇談会を開催

2007年7月5日、来日中のフィラデルフィア科学大学（University of the Sciences in Philadelphia）経営大学院および医療政策大学院の学生一行と医薬産業政策研究所との懇談会を製薬協にて開催しました。

フィラデルフィア科学大学は、米国の製薬・バイオ産業の中心地のひとつであるフィラデルフィアに立地する大学で、米国製薬企業の創業者を卒業生として数多く輩出するなど、医療・製薬・バイオ分野では歴史と伝統のある大学として知られています。

2007年7月5日、同大学経営大学院および医療政策大学院のブルース・ローゼンタール教授ほか15名の大学院生一行の来訪を受け製薬協にて医薬産業政策研究所の研究者と懇談会を開催しました。

医薬産業政策研究所からは、6月に発行した研究報告書「製薬産業の将来像」の内容を中心に日本の製薬産業の現状と課題について報告を行いました。

意見交換では、日本の医療政策、産業政策の動向、治験環境、ドラッグ・ラグ問題、製薬企業の研究開発活動など、幅広いテーマについて活発な議論が展開されました。

また、米国の製薬産業にとって大きな課題となっている産業イメージの改善に向けた活動についても有意義な意見交換が行われました。

予定の時間を大きく超過するなど、日本の製薬産業に対する関心の高さが感じられた懇談会でした。

（医薬産業政策研究所 主任研究員 笹林幹生）



フィラデルフィア科学大学



ローゼンタール教授からの記念品贈呈